



電波時計 取扱説明書

取扱説明書番号 MA-Q014B

このたび弊社電波デジタルウォッチをお買い上げいただきありがとうございました。
ご使用前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。この取扱説明書はお手もとに保存のうえ必要に応じてご覧ください。

	警告 この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意 この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お取り扱いについて**
△警告 防水性能について
 ＊防水時計の防水性能や機能を必ずご確認いただき、「取扱説明書」に従って正しくご使用ください。（誤った使用は、危険です。）
 ・非防水時計：水滴のかかる場所でのご使用はできません。
 ・3気圧 (3BAR) 防水時計：洗顔などはできますが、水中でのご使用はできません。
 ・5気圧 (5BAR) 防水時計：水泳などはできますが、スキndaイビング(素潜り)などにはご使用できません。
 ・10/20気圧 (10/20BAR) 防水時計：スキndaイビングなどはできますが、スキューバダイビングにはご使用できません。
 ・防水性能 …… 時計の文字板及び裏蓋の防水性能表示をご確認の上、下図をご参照ください。

仕 様	表 示		使 用 例				
	ケース	文字板	水のかかる程度の使用。(洗顔、雨等)	水仕事や一般水泳に使用。	スキndaイビング、マリンスポーツに使用。	空気圧計を使用するスキューバダイビング時。	水滴がついた状態でりゅうず操作。
非 防 水	—	—	×	×	×	×	×
3 気 圧 防	WATER RESIST	WATER RESIST	○	×	×	×	×
5 気 圧 防	WATER RESIST	WATER RESIST	○	○	×	×	×
10気圧防水 20気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST	○	○	○	×	×

- ご注意**
 ・りゅうずは常に押し込んだ状態 (通常位置) でご使用ください。りゅうずがねじロック式タイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
 ・水分のついたままりゅうずの操作をしないでください。
 ・皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活防水以上の機能を要する時計の場合は脱色、接着はがれなどの具合を起すことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド (金属製またはゴム製) にお取り替えの上、ご使用ください。
 ・防水時計の場合、海水に浸した時や汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。(蛇口の水を直接かけないで、汲んだ水で洗ってください。)
 ・時計の内部にも多少の湿気がありますので、外気の温度が時計内部より低いときは、ガラス面がくもる場合があります。くもりが長時間消えない時は、お買い上げ店にご相談ください。
 ・一定の防水性能を保つため定期的に (2〜3年を目安に) パッキンの交換をしてください。(お買い上げ店にご相談ください。)
△注意 携帯時の注意
 ・幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分にご注意ください。また、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
 ・サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。
△注意 金属バンドのお取り扱いについて
 ・バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
△注意 電池のお取り扱いについて
 ・幼児の手が届かない所に置いてください。
 ・万一電池を飲み込んだ場合には直ちに医師と相談して治療を受けてください。
△注意 電池交換について
 ・電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液等により故障の原因となることがあります。早めに電池交換してください。電池交換の際は必ず指定電池をご使用ください。
△注意 かぶれについて
 ・ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。また、皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起すことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
 ・バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。(時々やはりりゅうず通常位置のままでりゅうずを空回りさせてゴミ、汚れを落としてください。)
 ・かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐ医師に相談してください。
 (かぶれの原因) 金属、皮革アレルギー、時計本体およびバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗などです。

- (時計のお手入れ方法)
 ・ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
 ・皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。
ご注意
温度について
 ・−10℃〜+60℃から外れた温度下では機能低下や、停止することがあります。
 ・直射日光にさらしたり、炎天下の車内など高温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり、電池寿命が短くなります。
 ・屋外など、低温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり電池寿命が短くなります。
磁気について
 ・磁石には近づけないでください。磁気健康機具 (磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの止め具、携帯電話のイヤホン部など、磁気近づけると正しい時刻を表示しません。この場合は磁気から離して時刻修正を直してください。
静電気について
 ・クォーツウォッチに使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。テレビ画面などの強い静電気を受けると表示がずれることがありますのでご注意ください。
ショックについて
 ・床面に落とすなどの激しいショックはあたえないでください。
化学薬品・ガス・水銀について
 ・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

- 保管について**
 ・長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管ください。
お買い上げいただいた時計について
 ・この電池は、工場で組立時に機能、性能を確認する為のモニター用電池です。お買上後、所定の年数に満たないうちに寿命が切れてしまう事がありますのでご了承ください。
 ※電池は、保証外です。保証期間内であっても交換は有料となります。

製品仕様 P862

- 特 徴：長波標準電波を受信し、時刻を自動修正できるデジタルクォーツ時計
- 時間精度：平均月差±30秒以内 (常温5℃〜35℃)
電波受信による時刻修正が正しく行われなかったとき
- 基本機能：時刻表示 時・分・秒、(午前/午後または24時間制の切替表示)
カレンダー 月・日・曜日 (2099年までのフルオートカレンダー)
クロノグラフ 計測時間 24時間 (23時間59分59秒)
計測単位 1/100秒 (60分未満) 1秒 (60分以上)
計測機能 通常計測、スプリット計測
アラーム 時刻アラーム

- 付 加 機 能：電波受信機能
受信電波
 1) タイムゾーン 9h を設定した場合 JJY (日本) 福島局：40KHz / 九州局：60KHz
 2) タイムゾーン 0h、1h を設定した場合 MSF (イギリス)：60KHz
 3) タイムゾーン 7h を設定した場合 WWVB (アメリカ)：60KHz
 定時受信 1日最大2回 (午前2時、午前3時)
 強制受信 手動による受信
 受信中レベル表示
 受信結果確認機能
 バックライト (L)ボタンを押すと時刻表示が発光する
- 使用電池：CR2016 1個
- 電池寿命：新しい電池を組み込み後約2年 (自動受信を1日2回、マニュアル受信を1週間に1回使用)

表示・ボタンの説明



バンド調整方法

- △注意**
 ●**バンド調整について**
 ・バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
 ・バンド調整後不要になったピン、コマ等は危険ですので、そのまま放置しないで安全な場所に保管してください。
 ・作業を行うときは、けがや事故防止のため十分注意してください。(万一ケガ等された場合、メーカーとして責任は負いかねます)

スライド式フリーアジャストバンド (中留ダボの形状が2種類あります。)

- ① マイナスドライバーの様なもので中板を持ち上げます。腕の太さに合う様にスライドさせ、位置を調整します。
 中留ダボがバンドコマの間合いに合うところを手応えて探ってください。
△注意 中板を固定する時は、中留ダボとバンドコマの間合いを合わせてください。中留ダボがバンドコマの間合いに入らないとはまりません。無理に中板を戻すと破損する恐れがあります。
 <中留めに窓がある場合> <窓がない場合：バンド表面>
 中留の隙間の窓からバンドコマとコマの間が覗ける様にしてください。
- ② マイナスドライバーの様なもので中板を下げます。
 中留
- ③ 留め金カバーを中留に引掛けてから留め金カバーの蓋をしてください。
 蓋

三ツ折バックル方式(ダブルカバー付)

- ① 長くするとき
 工具、またはセムクリップなど
 ダブルカバーを三ツ折カバーからはずして、再び三ツ折カバーの適合した長さの位置に取り付けてください。
- ② 短くするとき
 ダブルカバーを取りはずして、三ツ折カバーの適合した位置に取り付けてください。

板バネ方式

- ① バンド裏面のアジャスト穴にドライバー等を入れてバンド刻印矢印方向にピンを抜いてください。
 抜く方向
- ② 不必要なコマを取り外した後、ピンを抜いた方向の状態、ピンを入れ戻してください。
 入れる方向

- 複数ジュエリーバックル方式** バンドコマ(1コマずつ計2コマ)を差脱する事により長さの調整が可能です。
 ① 差脱可能コマ
 ② 止め具を矢印方向に外してください。
 ③ この止め具も同様に外すことができます。

三ツ折フリーアジャストバンド

- ① 留板
 両プッシュ中留を両サイドから押し留板を開きます。
- ② 両プッシュ中留
- ③ 図のように開きます。
- ④ 中板は矢印方向に起こして固定を外して
- ⑤ バンドをスライドさせ最適な位置に調整します。
- ⑥ 中留の隙間の真ん中にバンドコマが入る様に必ず合わせてください。
 中留の隙間の窓からバンドコマとコマの間が覗ける様にしてください。
- ⑦ 中板を倒してバンドを固
- ⑧ カッチと音がするまで留板を押して固定してください。定します。
 留板
 中留
 中留の隙間の窓からバンドコマとコマの間が覗ける様にしてください。

割ピン方式

- ① ピンをバンド裏面の矢印方向にそってドライバーの様なもので押し出します。
- ② 不必要なコマを取り外した後、ピンを抜いた方向の状態、ピンを入れ戻してください。
 入れる方向

割ピン方式 (ピン抜き台のある場合)

- ① 付属のピン抜き台をバンド調整穴に差し込み、バンドを上から押しつけ、バンドに組み込まれているヘアーピンを押し出します。
 垂直に押す
 ※必ず矢印の方向へ抜いてください。
 - ② 外したコマの両サイドのヘアーピンを抜き、バンドをつめます。
 - ③ 抜いたヘアーピンのうち1本を使い、図の方向に差し込みます。
 ※ピンの形状が上下で異なります。正しい方を矢印に向けて入れてください。
 - ④ 次にバンドを上下逆にして平らな硬い台に押しつけ、ヘアーピンを差し込んでください。ヘアーピンは、確実に中まで押し込んでください。
 垂直に押す
- ※途中からラジオペンチ等で挟んで、ピンをまっすぐに引き抜いてください。

保証とアフターサービスについて

- ①修理のご依頼は原則としてお買い上げ店に保証書添付の上ご持参ください。
- ②当社は時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ガラス、側、バンド、文字板、針などの外装部品につきましては、外観の異なる代替部品を使用させていただく事がありますので、ご了承ください。
- ③保証期間を過ぎたものの修理については、有償にて申し受けます。また修理可能期間につきましては、ご使用の状態にていちじるしく異なりますが、部品保有法定期間に準じます。
- ④ご購入、ご転居によりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、下記シチズン時計(株)Q&Q お客様相談室へ保証書を添えてご郵送またはご持参ください。その場合の諸掛りはお客様のご負担となります。
※ご郵送の場合は紛失などを防ぐため簡易書留をご利用ください。

サービス窓口：Q&Qお客様相談室

TEL.	0120-977-319
受付時間	10〜12時 / 13〜16時 月〜金 (祝日、年末年始を除く)
メールアドレス	qqsupport@citizen.co.jp
URL	http://qq-watch.jp

製造発売元 **シチズン時計株式会社 Q&Q事業部**

電波時計について

- 電波時計について**

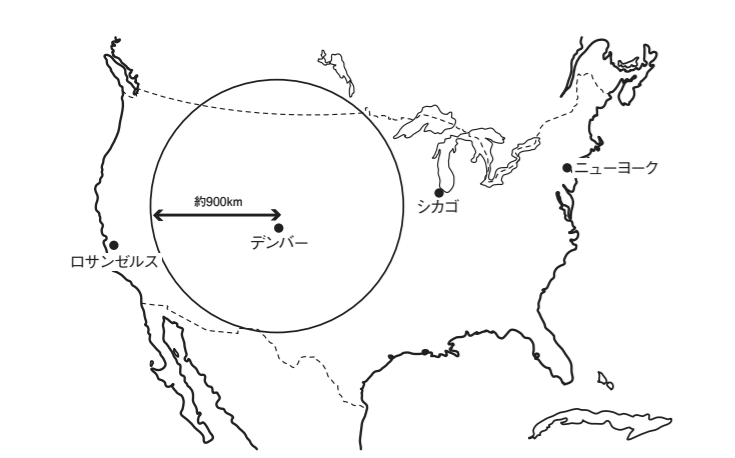
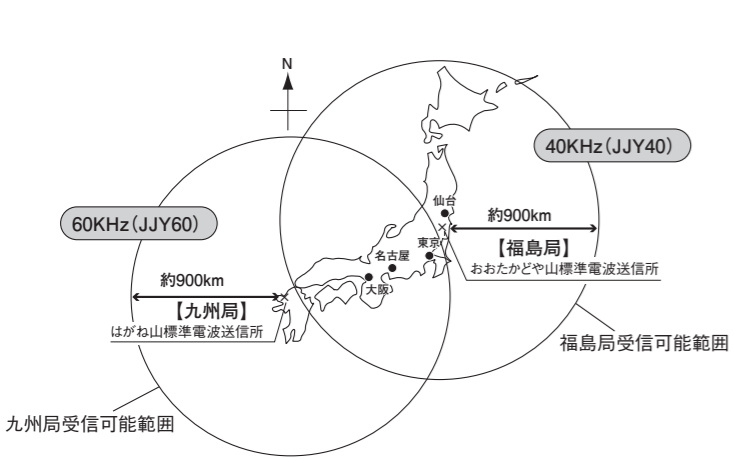
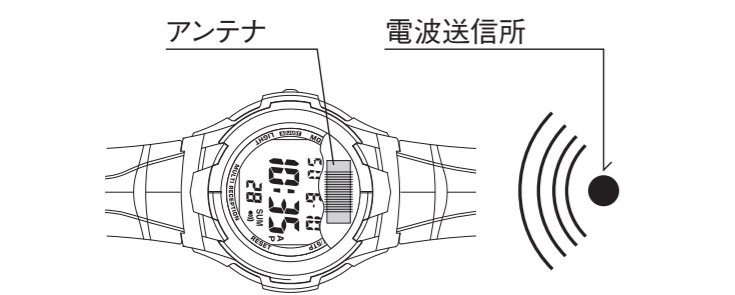
電波時計とは時刻情報をのせた長波標準電波を受信し、時刻表示を修正する時計です。

- 標準電波について**

日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（N I C T）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所」から送信されています。アメリカの標準電波（ WWVB ）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFortCollinsから送信されています。イギリスの標準電波（MSF）はNational Physical Laboratory（NPL）が運用しており、ロンドン近郊のRugby市から送信されています。これらの標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策で一時的に中断される事があります。

- 受信範囲の目安**

この時計が受信可能な地域の目安は標準電波送信所より約900kmです。ただし標準電波の届く範囲は時間帯や季節、気候条件、周辺環境により変化することがあります。 ※受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲内でも受信できない場合もあります。
- 受信時の時計の向き**



※受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲内でも受信出来ない場合もあります。

- 上手に受信するために**

電波は金属の遮蔽物により受信しにくいことがあります。鉄筋コンクリートの建物などではできるだけ標準電波送信所方向の窓の近くで受信してください。
- 安定した受信を行うために受信中は時計を動かさないでください。
- 受信アンテナ（時計の上側に組込まれています）の向きを標準電波送信所に向けて安定した受信を行うことができます。
- 受信中に表示される受信マークで受信状態の確認をすることができます。標準電波を安定して受けることのできる場所、時計の向きを見つけておくと安定した受信を行うことができます。



※強い電波を受信している表示をしてもノイズ等の周辺環境により受信できない場合もあります。

※受信に要する時間は最大で13分です。標準電波送信所からの距離、時間帯、季節変化、天候等により変化することがあります。

- 受信が困難な場所**
 - 極端に高温、低温な場所
 - 鉄筋コンクリートの建物の中や地下、高層ビルや山などの谷間
 - 車、電車、飛行機等の中
 - 高压線、電車の架線、飛行場の周辺等ノイズの発生し易い場所
 - テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やインバータ付き蛍光灯、O A 機器、ご使用中の携帯電話の近く
- ※受信困難な環境下では時計に内蔵されているクオーツの精度で作動します。受信可能な環境に戻ると受信を行うことにより正確な時刻を表示します。また、受信を行ってから次の受信を行うまでの間も時計に内蔵されているクオーツの精度で動作します。



電波の受信方法

- 受信について**

この時計は、操作なしに自動的に受信を開始する「自動受信」とボタンの操作によって実行される「強制受信」とがあります。電波を正しく受信すると自動的に時刻、カレンダーが修正されます。
- 自動受信
 - 1日最大2回（ホームタイム時計の表示時間基準で午前2時と午前3時）自動的に受信を開始します。午前2時の受信が成功すると以後の自動受信をキャンセルし、翌日の午前2時まで自動受信は行われません。
- 強制受信
 - 時計表示の時に **R** ボタンを押し続けると受信マークが点滅して受信を行います。受信に適した環境に置いて2～13分お待ち頂きますと安定した受信を行う事が出来ます。

※受信を行う際には（●上手に受信する為に）を参照し、受信し易い環境で行ってください。

- 受信マークについて**

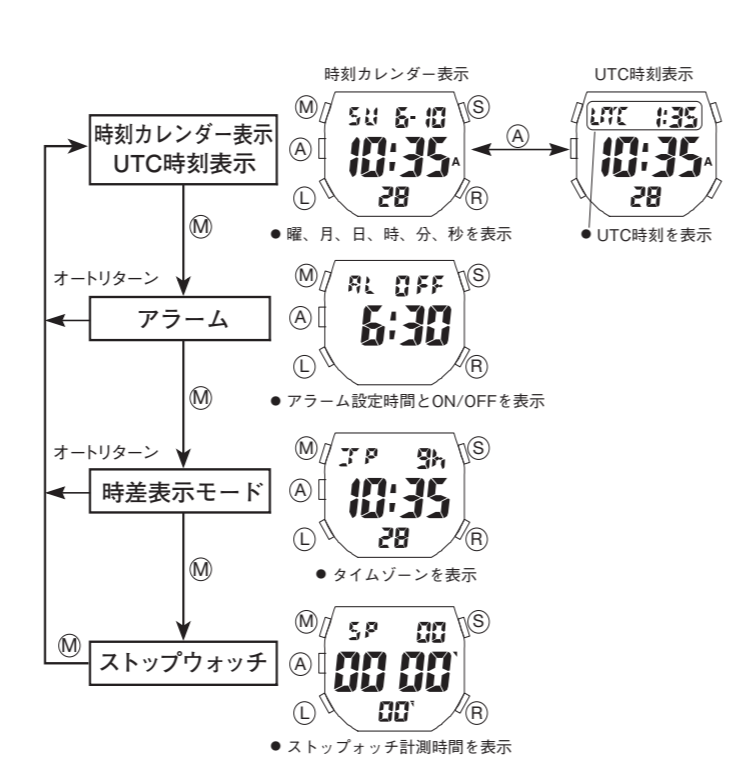
受信が成功すると受信マーク“”が点灯します。受信マークは受信成功後、24時間点灯します。受信マーク点灯中に手動による時刻合わせを行なうと、受信マーク“”は消灯します。

※受信が正常に終了しているにも関わらず正しい時刻、カレンダーが表示されていない時は受信中にノイズ等が影響し、間違ったカウントを行った事が考えられますので場所を変えて再度受信を行ってください。

※受信機能を多用しますと電池消耗を早めますのでご注意ください。

表示の切り替え方

※ **M** ボタンを押すと以下の順で切り替ります。



- UTC時刻**

協定世界時。Universal Time Coordinated の略です。

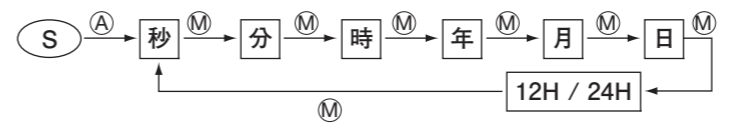
時刻、カレンダーの使い方

標準電波の受信による時刻合せの他、手動で時刻を合せる事も出来ます。
※受信を行うと正確に時間を合せる事が出来ます。

- 受信による時刻の合せ方**

電波の受信方法を参照してください。受信が行われ時刻、カレンダーを合せられます。
- 手動による時刻の合わせ方（受信が困難な場合）**

時刻表示の時に **A** ボタンを押し続けると「秒」が点滅します。点滅箇所が修正可能です。**M** ボタンを押す毎に点滅箇所が下記の順で移動しますので **R** または **S** ボタンを押して合わせてください。



- 秒の合わせ方**

「秒」が点滅している時に **R** または **S** ボタンを押すと秒表示が「00」秒になります。
- 分、時、年、月、日の合わせ方**

M ボタンを押して修正する箇所を選び **S** または **R** ボタンを押して合わせてください。**S** ボタンを1度押すと1進み、**R** ボタンを1度押すと1戻ります。押し続けると早送りとなります。
- 12時間制表示／24時間制切換え方**

「時：分」が点滅しているときに **R** または **S** ボタンを押し、時間制を切替えてください。
- 修正の終了**

12時間制／24時間制切換えの後、**A** ボタンを押すと修正が終了します。曜日は修正された年、月、日に合わせて自動計算され表示します。またどの箇所が点滅していても **A** ボタンを押すと修正は終了します。

アラームの使い方

アラームは分単位でセットできる他、「ON」「OFF」を切替える事も出来ます。
※受信中にアラーム設定時間になりますと受信は一時中断し、アラーム終了後に再度受信を行います。

- アラーム時刻の設定の仕方**

アラーム表示の時に **A** ボタンを押し続けると「時」が点滅します。**R** または **S** ボタンを押して「時」をセットしてください。**R** または **S** ボタンを押し続けると早送りになります。「時」のセットが出来ましたら **M** ボタンを押ししてください。「分」が点滅するので同様にセットしてください。**A** ボタンを押すとセットが完了しアラムマーク“**●**”が表示されます。「時」の修正途中でも **A** ボタンを押すとセットが完了します。
- セットした時刻になるとアラームが鳴ります。アラーム鳴り中いずれのボタンを押しても音を止める事が出来ます。
- アラーム解除の仕方**

アラーム表示の時に **R** ボタンを押すとアラームの「ON」「OFF」が切り換ります。

タイムゾーンの使い方

ご使用になる地域の時差を設定してください。
本時計は工場出荷時は“時差=9h（日本）”に設定されています。また、電池交換後は“時差=-8h（アメリカ）”に設定されます。
時刻表示のときに **M** ボタンを2回押して時差表示モードにします。

- A** ボタンを押し続けると「時差」が点滅します。**S** ボタンを1度押すと1進み、**R** ボタンを1度押すと1戻ります。どちらも押し続けると早送りとなります。下表をご参照のうえ、ご使用になる地域の時差を設定してください。「時差」のセットが出来ましたら **M** ボタンを押しください。
- DS**が表示され「OFF」または「ON」が点滅します。**R** または **S** ボタンを押してサマータイムを設定してください。
- サマータイムを「ON」にするとその時差エリアの時刻は1時間進んで表示されます。サマータイムを「OFF」にすると時刻はもとに戻ります。
- A** ボタンを押すとセットが完了します。

時差	都市名	受信できる電波	時差	都市名	受信できる電波
0h	ロンドン	MSF(イギリス)	-12h		無し
1h	パリ	MSF(イギリス)	-11h		無し
2h	カイロ	無し	-10h	ホノルル	無し
3h	モスクワ	無し	-9h	アンカレッジ	無し
4h	ドバイ	無し	-8h	ロサンゼルス	無し
5h	カラチ	無し	-7h	デンバー	WWVB(アメリカ)
6h	ダッカ	無し	-6h	シカゴ	無し
7h	バンコク	無し	-5h	ニューヨーク	無し
8h	台北	無し	-4h	カラカス	無し
9h	東京・ソウル	JJY(日本)	-3h	リオデジャネイロ	無し
10h	シドニー	無し	-2h		無し
11h	ヌメア	無し	-1h		無し
12h	ウェリントン	無し			

ストップウォッチの使い方

計測時間は1/100秒単位で23時間59分59秒99まで測定でき、時間経過後は自動的に0に戻って計測し続けます。

計測カウントがリセットされた状態で **R** ボタンを押すとスプリットとラップの切換えができます。

「SP」表示のときは、スプリットタイム（途中経過時間）計測、「LA」表示のときは、ラップタイム（区間経過時間）計測が出来ます。

- ストップウォッチ表示の時に **S** ボタンを押すと計測を開始します。再び **S** ボタンを押すと計測がストップします。さらに **S** ボタンを押すと計測のストップしている状態から再度計測を開始すると積算計測もできます。
- 計測がストップしているときに **R** ボタンを押しますと計測カウントがリセットされます。
- ストップウォッチ計測中に **R** ボタンを押しますとスプリットタイム計測（またはラップタイム計測）を行う事が出来ます。スプリットタイム計測（またはラップタイム計測）では表示は停止しますが時計は計測を続けています。再度 **R** ボタンを押すとストップウォッチ計測中表示に戻ります。
- スプリットタイム表示中（またはラップタイム表示中）に **S** ボタンを押すとストップウォッチ計測がストップします。再び **S** ボタンを押すとストップウォッチ計測が再開されます。
- スプリットタイム（またはラップタイム）がストップしている時に **R** ボタンを押すと計測カウントがリセットされます。

バックライトの使い方

全ての状態で **L** ボタンを押すとバックライトが点灯します。ボタンを1回押した時のバックライト点灯時間は約2秒です。
※バックライト照明を多用しますと電池消耗を早めますのでご注意ください。

電池の交換

どの表示状態であっても、バックライトを点灯させた時に表示が薄くなる場合、また通常のご使用で表示が薄くなる場合はご使用の電池が消耗した事を表します。また、電池切れ予告マークが表示された時も電池の消耗を表します。
いずれの場合も至急電池を交換してください。電池交換後は“タイムゾーンの使い方”を御参照になり、ご使用になる地域の時差を設定してください。